

会議概要記録

件名	令和3年度 第2回鹿児島市健康増進計画推進検討委員会	作成課	鹿児島市 保健政策課
日時	令和4年2月 書面開催		
出席者	委員 26名 健康づくりの普及に関係する団体の代表者19名、公募委員4名、行政の代表者3名		
協議アンケート結果より主な意見等	<p>【議題】 (1) 鹿児島市第二次健康増進計画「かごしま市民すこやかプラン」(資料1:P1~9) ~ 悪化がみられている指標について ~ かごしま市民すこやかプラン」は、令和4年度に最終評価及び次期健康増進計画の策定のため市民意識調査を実施予定。悪化がみられた項目における庁内各課の取組に関する主なご意見について</p> <p>【たばこ・アルコール】 ・(委員)妊婦のたばこについては、赤ちゃんのことを考えるといいことは一つもないので、「0」を達成してほしいです。乳幼児の害も考えるとここでやめるよう指導してもらいたい。 ⇒(事務局)「0」を目指して、引き続き支援者の研修会を実施し、妊婦が禁煙できるように支援していきたい。 また、若い世代からたばこの害について普及するよう、学校等と連携していきます。</p> <p>【生活習慣病】 ・(委員)CKD 予防ネットワークがもっと機能していくように対策を考えていただきたいです。 ⇒(事務局)CKD について市民向けには広報に努め、医療関係者向けにはネットワークの機能強化のため研修会を実施していきます。 ・(委員)透析患者が増加しているのは、高齢者の増加によるものなのか、他に原因があるのか、検討してもらいたい。 ⇒(事務局)高齢者の新規透析患者が増えていることは、全国の報告でも共通しておりますが、本市の新規透析患者が増加している原因は明確ではありません。 ・(委員)メタボリックシンドロームと次世代の健康は共通して気になります。健康のための食、運動、睡眠がよく理解できていないように思われる。 ⇒(事務局)ご意見として承り、関係団体と協力しながら普及啓発に努めていきます。 ・(委員)主な取組みでは、医療関係での各種「健診事業」が直接的な実務で他は指導、啓発、ポスター掲示、講師派遣等市民への間接的な周知・PR 事業です。一番投資効果の高いのは「直接的な市民への説得」ですので、この部分こそもっと詳細を知りたい。 ⇒(事務局)医療機関における各種健診事業では、各種がん検診、特定健診や長寿健診がございます。いずれも健康寿命の延伸に欠かせない3大死因(悪性新生物・心疾患・脳血管疾患)の早期発見に役立つ取組です。この「健診事業」の受診率向上への取組みや、健診受診後の「保健指導」の強化に引き続き取り組んでいきます。 ・(委員)各健康づくり推進市民団体はそれぞれに知恵を絞って進めて頂いて居るところだと思うので、そこでの「直接的な市民アプローチ」方法を知りたい。これらの団体では対象とする市民へのマーケット・リサーチは為されているのか? 住民健診への参加率が低いのは何故か? 市民個人の一大事な健康に何故関心が低いのか? 等々への考察・対策を是非知りたい。 ⇒(事務局)各健康づくり推進市民団体の「直接的な市民アプローチ」は、各団体によって実施の仕方が異なります。実施されている団体は、ウォーキングイベントや講演会、健康教室などの健康づくりに関するイベントの開催や健康相談・健康チェック等が実施されている。これらについて、マーケットリサーチまで為されているかは把握していないところである。なぜ健康に関心が低いのかについては不明ですが、健康無関心層に対する取組は課題であるため、引き続き検討していきます。</p>		

【次世代の健康】

・(委員) 歯の健康やたばこ・アルコール・生活習慣病(運動)など、大人になってから、病気になってからではなく、児童生徒(小～高)までに、啓発等の取組みがなされており、学校・行政、関係機関の連携と努力が伺える。指標は最も分かりやすいデータであるので、今後数値による成果を期待したい。

⇒(事務局) 引き続き、学校・行政、関係機関と連携して取り組み、成果につなげていきたい。

・(委員) 子どもの肥満、男児で悪化傾向について、コロナ禍でさらに悪化が予想される。オンラインでできる体育など取り組まれているのか。

⇒(事務局) 現在、特に取り組まれているものはないと聞いている。今後、関係課と検討していきたい。

【その他】

・(委員) 未達、悪化の理由を(分かる範囲で)知りたい。

⇒(事務局) 一要因ではなく、様々な要因があると思われることから、関係課からの情報や令和4年度実施される市民意識調査などを通して、理由の分析に取り組んでいきたい。

・(委員) コロナ禍での取組みになるとは思いますが、ニューノーマルの意識で取り組んでいただきたい。

⇒(事務局) ご意見として承ります。

(2) 働く世代の健康づくり事業について(資料1:P10~15)

健康づくりパートナー、「これは便利!かごしま健康サポートブック」、来年度の取組みについて、「健診受診率が目標達成できていないこと(報告義務のない50人未満の小規模事業所の健診受診率が低い)等の課題について

【健康づくりパートナー】

・(委員) 事業所が登録することで組織全体の意識向上と健康維持が高まり社会全体に広がることを期待したい。

・(委員) コロナ禍で難しいと思われるが、健康教育をこのまま継続し、増やせていけたらと考える。

・(委員) 当社も登録事業所とさせていただいている。教育ありがとうございました。

・(委員) 健康づくりパートナー同士が連携して、健診受診を勧めたり、健康支援する仕組みを考えてはどうか。各パートナーに実施可能な「健康支援活動」を聞き取ってみてはどうか。

⇒(事務局) パートナー同士の連携については、専門部会においても今後検討していきます。

・(委員) 日本中がそうですが、鹿児島は特に小規模・零細事業所が殆どである。19人以下事業所が約九割を占めます。受診率が低いのは各健康づくり推進市民会議団体等による「直接的な市民アプローチ」が弱いからだと思察する。その前提である「市民へのマーケット・リサーチ」の不足に原因があると思察する。従業員であっても健康はあくまで個人の案件である。この前提に立たないと「自分の健康は自分で守る」との意識は生まれにくい。

⇒(事務局) ご意見として承ります。

【働く世代の健康づくり事業】

・(委員) 働く世代の健康づくり事業の中で、報告義務のない50人未満の小規模事業所については、業種別の組合があるようなので、利用して展開できないものか。

⇒(事務局) 令和3年度は、建設業協会・建築業協会に事業説明に参りました。今後も少しずつ業種別の組合への働きかけを行っていきます。

・(委員) 「50人未満の小規模事業所の健診受診率が低い」ことについて、アンケートの調査結果を踏まえて、業務であること、方法が分からないなどの回答に対応してこられたと思うので、それでも受診率が上がらないのであれば、原因は何なのかを見つけて根気よく受診勧奨を伝えていくことが必要だと思う。国民健康栄養調査のように、地域(事業所)へ出向いて行って健診を受けていただくことは、難しいのか(医師、保健師、看護師が出向いて採血などを行う)。

⇒(事務局) 職場で健診を受けることができる健診機関(ヘルスサポートセンター)に關す

る情報提供をしていきます。

・(委員) 健診を受けることのメリットが事業所(小規模)に伝わるようにすることを今後とも努力していきたい。

⇒(事務局) ありがとうございます。引き続きよろしく願いいたします。

【その他】

・(委員) どの会社の就業規則にも「病気休暇・休職の日数制限」がある。しかしこれを自覚する従業員はとても少ない。今後急増が予想される精神疾患では長期休職を要するケースが多いことから、小規模・零細事業所には事業継続の為に就業規則と自主保健意識の周知・徹底とを啓蒙すべき。人手不足が加速する今後は特に経営上とても大切な助言となると思われる。

⇒(事務局) ご意見として承り、今後の取組みの参考とさせていただきます。

次回健康づくり推進会議：令和4年6～7月頃開催予定